

平成28年2月15日

加西市議会議長 三宅 利弘 様

建設経済厚生常任委員長

長田 謙一



## 建設経済厚生常任委員会行政視察報告書

下記のとおり行政視察を実施しましたので、報告いたします。

### 記

1. 日 時 平成28年2月1日(火) 14時00分～16時00分
2. 視察先 兵庫県多可郡多可町
3. 参加者 長田謙一、丸岡弘満、黒田秀一、中右憲利、原田久夫、深田真史、三宅利弘  
後藤光彦(議会事務局随行)
4. 視察内容等(詳細は別紙のとおり)
  - (1) 視察項目 有害鳥獣対策(シカ肉処理加工施設)について
    - ・多可町小規模シカ肉処理加工施設
    - ・NPO法人 cambio 無添加鹿肉ドッグフード製造施設
  - (2) 視察対応者 

産業振興課	渡邊課長
産業振興課	梅田課長補佐
多可町	吉田理事兼防災監
NPO法人 cambio	後藤理事長
多可町議会	河崎議長
多可町議会	笹倉生活環境常任委員長
議会事務局	植山局長補佐
5. 所 感 各委員の所感は別紙のとおり

## 【多可郡多可町】

### 〔調査事項〕

有害鳥獣対策（シカ肉処理加工施設）について

- ・多可町小規模シカ肉処理加工施設
- ・NPO 法人 cambio 無添加鹿肉ドッグフード製造施設

### 〔目的〕

市単独での施設の建設及び運営の可能性の有無、または持ち込み等の連携の可能性の有無

### 〔内容〕

#### ■多可町小規模シカ肉処理加工施設

- ・有害鳥獣対策と地域資源の有効活用を図る目的で設置。
- ・施設の概要は、平成24年2月9日竣工、事業費900万円、既存の空き施設（町立保育所跡）の一部を改修して利用、面積69㎡、荷受場→一時加工処理室→熟成庫→カット室と搬入から精肉加工まで一方通行で処理、年間処理可能頭数は200頭。
- ・運営主体は、多可町有害鳥獣対策協議会加工部会で、多可町猟友会所属の5名が搬入受け入れ、解体処理、精肉加工、精肉販売を行う。
- ・年間維持費は、約80万円（H24～26の平均）で、光熱水費40%、労務費50%、廃棄物処分費5%、その他5%。
- ・処理頭数は、H24（H23含む）は51頭で精肉量335.7kg、H25は36頭で316.4kg、H26は27頭で240.1kgのうち販売量は218kg。
- ・売上高は、約64万円（H24～26の平均）で、差し引き約16万円の赤字となっており、赤字分は町が支援している。
- ・常時開業していない。シカを搬入して解体し熟成庫で5日程度熟成させ精肉加工する。シカ1頭を処理するのに約1日を要する。
- ・販路は、主に多可町の特産品クラブ、エーデルささゆり及び西脇ロイヤルホテルのレストラン。
- ・他の自治体で駆除（捕獲）したシカは受け入れていない。多可町のシカ肉は、兵庫県認証食品（ひょうご推奨ブランド）の認証を取得しており、「血抜きしたシカを2時間以内に施設に搬入したものを処理すること」、「極端な痩せや皮膚炎等がないか、銃器で捕獲した場合は弾が内臓を貫通していないか、猟犬が噛んでいないか等の外見に異常が認められないことを確認したシカのみを受け付けること」となっている。この認証条件のクリアと施設に常駐者がいないということが受け入れできない理由。
- ・猟師は現在29名（うち銃器免許保持者19名、罟免許保持者が10名）。猟師の確保のために免許取得時の経費の半額を助成する制度をH29から創設する予定。
- ・防護柵は、加美区は100%、中区はH29であと1集落が残るだけ、八千代区はH27から3集落が設置を開始。
- ・H28には兵庫県の補助事業であるシカ捕獲個体活用等支援事業を活用して、ストックポイント（冷蔵庫）の整備を行う予定。これにより集積したシカ個体を食用、ドッグフード用、焼却処分用に変別することで、より円滑な搬入ができるようになる。

#### ■NPO 法人 cambio 無添加鹿肉ドッグフード製造施設

- ・総務省の地域経済循環創造事業交付金（平成 26 年 5 月決定）を活用。事業費は約 5,437 万円、補助額が約 4,399 万円、金融機関融資が約 1,000 万円、自己資金が約 38 万円。
- ・空き施設であった旧加美町給食センターを改修して活用、面積は 200 m<sup>2</sup>。
- ・就労継続支援 B 型事業所として整備し、B 型利用者の定員は 40 名。NPO 法人の設立は平成 23 年 3 月、就労継続支援 A 型事業所（定員 20 名）も運営。
- ・年間維持費は、光熱水費が約 240 万円、町への家賃が 120 万円、水質検査委託費が約 5 万円。
- ・処理（搬入）頭数は、交通事故やのり網に絡まったシカや有害鳥獣捕獲したシカであり、H27 年 6 月の搬入開始から 12 月までに 223 頭（時期によって異なり、直近 3 ヶ月では、10 月が 49 頭、11 月が 25 頭、12 月が 25 頭）。
- ・町との連携としては、食肉に適する個体は優先的に町の加工施設へ搬入されるが、食肉に適さないがドッグフードに利用可能な個体が搬入される。また、食肉に加工した際に、利用できない内臓等の部位も搬入される。NPO 施設にとっては材料が確保され、町にとっては処分費が削減されるなど、両方にメリットがある連携もなされている。
- ・シカの解体は搬入から 3 日以内に契約している猟友会の方に部位分けまでの作業をしてもらい、その後 2 日ほど就労継続支援事業利用者が部位からミンチに加工し、殺菌処理を施し冷凍保管して備蓄する。ドッグフード用であるため、血抜きしてすぐに処理する必要がない。
- ・売り上げは、本格販売の開始が H27 年 10 月からであるため、まだ月に 10 万円程度だが、処理能力を考えると将来的には年間で 1,600 万円の売り上げを見通している。
- ・販路は、道の駅や民間店舗の地元店舗、町外のペットフード店、インターネット通販。なお、地元での販売価格は町外やネット通販より低価格としている。
- ・他の自治体で駆除（捕獲）したシカは受け入れていない。理由としては、開始したばかりの事業であり、補助金の主旨が「地域の資源を活用して地域の経済を循環させる事業」とあるため。ただし、製造能力はあるので、シカ肉が不足してきた場合は、多可町等と協議の上、多可町と同等の条件では難しいが、受け入れる可能性はある。

{所感} 長田 謙一

\*多可郡多可町

- ・【有害鳥獣対策（シカ肉処理加工施設）について】
- ・減量化・レンタル施設（無添加鹿肉ドッグフード製造施設）

シカ肉の商品化とブランド化をめざしながら、有害鳥獣対策により捕獲したシカ肉を「ひょうごシカ肉ガイドライン」に基づき建設した小規模シカ肉処理加工施設において「兵庫県認証食品」として衛生的な加工処理した食用肉と商品化して販売している。

また、NPO法人カンビオは、多機能型就労支援B型事業所として、旧給食センターを改修した施設で、無添加のペットフーズの製造事業を行っている。この事業は、食肉加工に向かないシカ肉の有効活用を図られており販路開拓にも意欲的である。

加西市でも有害鳥獣対策として、特にイノシシ・シカ等の食肉加工所の設置及び、販売等の施設の設立も早急に対処、検討すべきと感じました。

[所感]丸岡弘満

☆多可町【有害鳥獣害対策（シカ肉処理加工施設）について】

今回は、ひょうごシカ肉ガイドライン制定後、兵庫県内で初となるシカ肉処理施設を視察してきました。特徴としては、福祉・農林・地域振興が一体となり、費用経費が一番掛かる施設を既存する旧保育所の調理室や倉庫を改修し、加工処理室や冷凍庫、肉を熟成させる熟成庫を整備した点です。また、事業費の900万円は町と県で折半をし、運営は町や地元猟友会、特産品加工グループなどで組織する「町有害鳥獣対策協議会」が担っています。加西市と同様に多可町でもシカが農産物を食い荒らす被害が相次いでおり、猟友会などに頼んで駆除にも力を入れてもらってはいましたが、獲ったシカは山中ですぐに解体作業をしなければならなかったために商品化をするということが大変困難だったようです。今回、衛生的に処理できる施設が出来たために処理、加工から特産品開発へと道が開け、シカの命を無駄にするのではなく、地域の食資源として活用をしながら福祉雇用の場（特定非営利活動法人 cambio）も生まれていることに感心をしました。

この特定非営利活動法人 cambio の活動は、遊休施設となった旧加美町給食センターを就労継続支援事業として改修し、町内の耕作放棄地を活用して生産した農産物、有害鳥獣対策で捕獲されたシカの肉を原料としたペットフードの製造および販売事業を行っており、農福商連携が上手に運営されている例の一つであると思います。また、今後の加西市としては、北播磨定住自立圏において、有害鳥獣被害は各地域が共通する課題として取り上げ、施設運営をしている多可町には是非とも協力してもらえる施策の提言とそれに伴った環境作りを急ぐ必要があるのではないかと考えました。

〔所感〕 黒田秀一

○多可郡多可町

【有害鳥獣対策（シカ肉処理加工施設）について】

シカ肉処理加工施設（無添加鹿肉ドッグフード製造施設）を見学し感じたことは、NPO法人の方が障がい者を雇用して運営されていることに感動を覚えました。まだまだ少人数ではありますが、障がい者の方々に働く場を提供することは大事かと思えます。

北播での広域を図って規模をもっと大きくして、どの市町村もシカやイノシシなど有害鳥獣で困っていると思いますので大規模な施設が出来ないのか提案したいと思えます。

[所感] 中右憲利

◇兵庫県多可町【有害鳥獣対策（シカ肉処理加工施設について）】

駆除したシカを有効利用して食肉用に加工する仕組みを整備しているが、衛生面での色々な条件があつてあまり生産量は多くない。むしろこの事業の重点は食用シカ肉の生産で使えない部分及び食肉用に適さないシカをNPO法人 cambio がペットフードに加工して販売する所にあると思う。

cambio は就労継続支援 A 型及び B 型事業所を運営する NPO 法人で、シカ肉をペットフードに加工する事で、駆除されたシカの有効利用と、主に精神障がい者の就労場所を作るという二つの目的を同時に達成している。

シカ肉の処理費用を軽減する事で行政コストを軽減でき、ペットフードを作るという食肉に比べて比較的品質的にハードルの低い仕事を障がいのある方々に提供する、そして事業者もある程度の儲けを得る事が出来るという事で、関わるすべての人達にとって利益がある素晴らしい仕組みを作られていると思う。

[所感] 原田久夫

※ 多可町【有害鳥獣対策（シカ肉処理加工施設）について】

この事業は、多可町の有害鳥獣対策として多可町と猟友会駆除班を中心とした多可町有害鳥獣対策協議会加工部会が運営するシカ肉処理工場とNPO法人 cambio（有害鳥獣対策を活用したペットフード加工）が協力体制をとり有害鳥獣対策を進めている。

シカ肉処理加工施設は、多可町が旧保育園を改装し捕獲したシカを多可町有害鳥獣対策協議会加工部会がシカ肉加工を行い食肉以外の部位をNPO法人 cambio に持ち込みペットフードに加工している。

NPO法人 cambio は、就労継続支援事業所で平成23年度から活動を開始し、旧給食センターをシカ肉ペットフード加工工場に改築及び近年敷地内に精肉加工場を増設し、猟友会の協力を得て事業を展開している。

この取組の特記するところは、年間の有害駆除捕獲、交通事故やのり網に絡まったシカが平成27年6月から12月までに223頭あり多可町加工施設で処理できない頭数をNPO法人 cambio へ持ち込みシカ肉ペットフード加工工場へ持ち込み加工している。

各団体が協力し営利事業として循環させ農作物被害の軽減に貢献していると共にNPO法人 cambio のシカ肉ペットフード販売においてもインターネット販売よりも地元店舗で低価格販売することで、多可町に来てもらえる流れを作る試みに見習うべきところが多くあった。

加西市等の他市からの多可町への有害駆除捕獲動物の持ち込みについては、難しいとこのことであったが、有害駆除捕獲した動物を利用した取り組みが広域的に必要と感じた。

〔所感〕 深田 真史

◇多可郡多可町【有害鳥獣対策について】

シカ肉原料のドッグフード製造について、町の遊休施設を製造施設として改修した点、シカ肉の食用に向かない部位を使ってドッグフードを製造することに目をつけた点、障害者の就労（就労継続支援B型事業所）として製造している点など、地域に密着し、工夫をこらした事業であると思った。

根本的に、有害鳥獣対策は個体数の削減があつてこそだと考える。多可町は加西市を含む「北播磨定住自立圏」の枠組みの中にあることから、鳥獣害対策に関する広域連携の必要性を感じる。また、加西市にも処理施設を〜という意見もあるが、広域連携の中で市町の役割分担をおこなうことも大切ではないかと思う。たとえば、捕獲や処理は多可町でおこない、加西市や加東市、西脇市では消費を進める形を考えるのも1つかもかもしれない。

[所感] 三宅利弘

◇多可町

(1) 有害鳥獣対策（シカ肉処理加工施設）について

\*多可町小規模シカ肉加工施設

町合併による空き施設を有効利用して平成24年2月に竣工、処理施設としては小規模ではあるが年間50～80頭のシカを処理加工販売まで行っている。

ここでは、多可町特産の食用肉として販売、売り上げは、年間64万程度であるが、シカによる農林業被害が深刻化する中、有害鳥獣対策と地域資源の有効活用を図るのが目的だと思うので利益には期待できないが被害防止の意味からすると大きく貢献できているのではないかと思う。

\*NPO法人 cambio 無添加鹿肉ドッグフード製造施設

この施設では、鹿肉をドッグフードに加工して販売まで行っている。

処理頭数や加工施設の稼働日数は、週3日程度の解体作業その後、週2日ほど就労継続支援の利用者に、部位からミンチにする加工処理作業をしてもらっている、加工処理を行ったミンチは、殺菌処理を施した後に冷蔵庫に保管し、ドッグフードの原材料として備蓄している、また処理頭数は、27年度実績で（直近3か月）100頭近いということですのですごい数を処理されているのに驚いた又、町の支援として食肉用に使用できない部位の提供や多可町の新たな特産品としてのドッグフードの販路の拡大、PRなどをされているのは、当然のことかな？

それよりも特筆すべきは、障がい者雇用にかかるB型就労支援とマッチングされていることである。

加西市でも出来ないものか検討すべき価値はある。